

キャリア教育の視点を授業実践に

活かすための取組

～児童の資質・能力を育てる生活単元学習の授業づくりをとおして～

千葉県立習志野特別支援学校 電話 047-470-7750

FAX 047-470-7752



研究のポイント

キャリア教育をライフキャリアの視点で捉え、児童の自立や社会参加、生活の質の向上に向けて、小学部段階で身につけてほしい力についての明確化に取り組んだ。また、切れ目ない連続した学びの実現に向けて、就学前施設や本校の多くの児童が進学する千葉県立八千代特別支援学校とキャリア教育の視点をとおした情報共有や地域・家庭との連携について取り組んだ。

■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/narashino-sh/>

本校は平成27年に開校した、習志野市を通学区とする、知的障害のある児童を対象とした小学部単独の特別支援学校である。同じ敷地内にある習志野市立袖ヶ浦東小学校と、年間を通して交流及び共同学習を行っている。令和4年度の全校児童数は49名である（12月1日現在）。「自ら学び、心豊かに、たくましく生活する児童の育成」を学校目標に掲げ、「たのしく、なかよく、げんきよく」を合言葉に教育活動に取り組んでいる。

■研究課題

就学前、小学部、中学部、高等部における切れ目ない連続した学びの実現に向けた小学部段階でのキャリア教育の充実について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【目的1】キャリア教育の視点を踏まえた授業実践を追究することにより、キャリア教育の視点における、小学部段階で身につけてほしい力の明確化を図り、授業の質及び児童の生活の質の向上につなげる。

【方 法】①講師招聘によるキャリア教育に関する全校研究会の実施
②生活を豊かにする「暮らす力・楽しむ力」をテーマとした協議会の実施
③協議結果を基礎的・汎用的能力の観点で「育てたい4つの力とその具体的な観点」として整理
④「育てたい4つの力」を意識した生活単元学習の授業づくりを行うための単元計画の書式検討
⑤「育てたい4つの力」の観点による授業実践

【目的2】キャリア教育の視点を踏まえた授業実践を追究することにより、就学前や小学部卒業後など、切れ目ない学習を行うための関係機関及び地域や家庭との連携を深める。

【方 法】①就学前施設との連携（体験研修、情報交換会、授業公開）
②千葉県立八千代特別支援学校との連携（情報交換会）
③家庭や関係機関との連携（情報発信）

■研究概要

<目的1>

【成果】

- キャリア教育を考えるにあたり、ライフキャリア（就労に限定せず、生涯の全ての場面で必要とされるキャリア）の視点で捉えることの重要性について、教員間で共通理解が図られ、質の高い学習活動への意識が高まった。
- 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年）で提示された基礎的・汎用的能力の4つの能力を誰でも分かりやすい言葉に置き換え「育てたい4つの力」とした。更に本校の児童の実態からあげられた15の具体的な観点を4つに分類したことで、児童の実態把握や生活単元学習の授業づくりに活用することができるようになった。
- 教員を対象にキャリア教育に関する質問紙調査を5月と11月に実施した。その結果、キャリア教育を意識して授業づくりを行っている教員の増加、また、キャリア教育を考えるにあたり、ライフキャリアの視点の重要性を捉えている回答の増加から、教員のキャリア教育の理解が深まったことが示唆された。

【課題・今後の可能性】

- 今年度は生活単元学習に焦点化し「育てたい4つの力」について整理、実践してきた。次年度以降は、「育てたい4つの力」を意識して、学校教育全体で実践していく必要がある。
- キャリア教育の観点から「育てたい4つの力」を伸ばすことで、児童の資質・能力の育成にもつながると考える。今後、キャリア教育の観点で「育てたい4つの力」を手掛かりに、育成を目指す資質・能力について理解を深め、更に質の高い授業づくりを行っていく必要があると考える。

<目的2>

【成果】

- 就学前施設との連携では、相互の療育目標や教育目標において同じ方向性があり、活動内容や環境面においても多くの共通点があった。そして、同様の内容の活動でも本校では、児童がより「自分で、自分から」取り組むための支援の在り方を考えていく必要があることが明らかになった。
- 千葉県立八千代特別支援学校との連携では、「育てたい4つの力」と安定した職業生活のための職業準備性の基礎となる能力に多くの共通点が見られた。また、児童が身につけた力を様々な場面や人とも発揮できることを目指す必要があることが明らかになった。
- 家庭との連携では、学校便りを通してキャリア教育に関する基本的な考え、本校の取組について周知し、協働で児童を支援していくための連携をより深めることができた。

【課題・今後の可能性】

- 本校は小学部単独のため、本校職員や児童、保護者が本校卒業後の生活（中学部や高等部、就職先・社会福祉施設）について知る機会が少ないため、施設見学や本校卒業後の学校や施設職員から話を聞く機会を設定していくことで、将来を見通した切れ目ない連続した学びにつながると考える。

関連資料

- ・特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）
- ・知的障害教育発、キャリア教育 東洋館出版社 名古屋恒彦著